

# クリティカルシンキング教育の現状と課題 —大学における授業実践者の視点から—

若山 昇<sup>\*1</sup> 梶谷 真司<sup>\*2</sup> 渡辺 博芳<sup>\*3</sup> 赤堀 侃司<sup>\*4</sup>

帝京大学法学部法律学科<sup>\*1</sup>, 東京大学大学院総合文化研究科<sup>\*2</sup>

帝京大学理工学部ヒューマン情報システム学科<sup>\*3</sup>, 白鷗大学教育学部<sup>\*4</sup>

## 概要

近年, 社会人のみならず学生にも論理的な思考力が求められ, クリティカルシンキング教育の重要性が高まっている。本研究は, 大学におけるクリティカルシンキング授業をどのように実践するべきかという検討に資するために, 授業関係者が授業に関する情報を共有すべくその実践例を開示し, 授業実践者の立場からクリティカルシンキング授業の現状と課題を分析した。大学で授業と研究を行う教員にインタビューを実施し, 質的分析を行ったところ, クリティカルシンキングを積極的に授業に取り入れる方法では, 制度的な外部からの力や授業科目の必修化などの形式的な方法論も必要だが, むしろ教育や教員の質的な要件が基本であり重要であると示唆された。

<キーワード> クリティカルシンキング, 教育, 授業, 教科書, 大学

## 1. はじめに

現代社会にはさまざまな情報があふれており, これを生き抜くためには, 論理的な思考や問題解決は不可欠になってきている。そこで, 教育におけるクリティカルシンキングの重要性・必要性が高くなっている。クリティカルシンキングとは, ここでは先入観に囚われず, 論理的に考え, 合理的な決定を導き出す能力と意思とする[1]。クリティカルシンキングは, 大学生として身につけるべき学習スキルとして大学への導入時教育に掲げられている[2]。クリティカルシンキングは学生の主体的な学びに必要なアカデミック・スキルであり, さらに日常生活から職業生活にわたる応用可能なジェネリック(汎用的)スキルとしても重要であると位置づけられている[3]。

また, 経済産業省(2006)の社会人基礎力に関する研究会報告書において必要とされているのは, 従来の学力とは異なる社会人基礎力であり, 疑問を持って

考え抜く力は重要であると指摘されている[4]。文部科学省(2008)では高等教育における各専攻分野を通じて培われる学士力の中でも, 論理的思考力がうたわれている[5]。さらに社会で必要とされ, 教育すべき 21 世紀型スキルの中に, クリティカルシンキングと問題解決の能力があげられている[6]。

つまり, これまでの知識偏重を避け, 知能や思考力を身につけることは重要になっており, 加えて, 社会人のみならず学生にもクリティカルシンキングを身につけることが求められている。

一方, 我が国におけるクリティカルシンキングの研究をみると, 科学研究費助成事業(以下, 「科研」という)の研究課題名に「クリティカルシンキング」または「批判的思考」を有する研究が, すでに 36 件に及んでいる(2013 年 9 月現在)。クリティカルシンキング教育が重要とされているものの, これを積極的に取り入れていると表明している授業は限られている。また, 大学の授業においてクリティカルシンキング教育がどのように行われているのかは, 大学教育の特質で各教員の自由意思に任されている。たとえ独創的な教育がなされていても, 研究活動とは異なるので, 開示されることはあまりない。したがって, 他の教員がいかなる教育を行っているのかは, 外からは見えにくい。つまり, クリティ

---

The Current Status of and Issues in Critical Thinking Classes:  
The Perspective of University Academic  
Noboru WAKAYAMA<sup>\*1</sup>, Shinji KAJITANI<sup>\*2</sup>, Hiroyoshi WATANABE<sup>\*3</sup>  
and Kanji AKAHORI<sup>\*4</sup>

<sup>\*1</sup> Faculty of Law, Teikyo University

<sup>\*2</sup> Graduate School of Arts and Sciences, The University of Tokyo

<sup>\*3</sup> Faculty of Science and Engineering, Teikyo University

<sup>\*4</sup> Faculty of Education, Hakuoh University

カルシンキング教育の実態は把握しにくく、実際にどのような教科書が使われているのか、さらにどのような課題があるのかも分かりにくい。

そこで、クリティカルシンキング教育の実践者の声を基に、どのような授業が行われているのかという情報を提供し、現状と課題を分析することが必要となる。なお、教育におけるクリティカルシンキングの必要性やその展望について考察した文献は存在するものの、授業実践者へのインタビューに基づき現状と課題を分析し、どのようにクリティカルシンキング授業を実践するのかについて考察したものは、見当たらなかった。

## 2. 研究目的

大学において現在行われているクリティカルシンキングの授業について、実践者の立場から現状と課題を分析し、実践例を開示し授業関係者が情報を共有することで、クリティカルシンキング授業をどのように実践するべきかという検討に資することが、本研究の目的である。

## 3. 研究方法

### 3.1 インタビュー調査の対象と時期

科研データベースを基に、2011年10月現在で科研の研究代表者としてクリティカルシンキング関連の研究経験を有し、かつ、大学でクリティカルシンキングを積極的に取り入れている授業を実施する教員を Web 検索して、15名全員にインタビューを依頼し、12名から回答を得た。その時点においてクリティカルシンキングの教育・研究を行っていないなどの理由で辞退された2名を除き、同意を得た10名に2011年11月から2012年1月の間に調査を行った。一名につき1時間の半構造化面接を、対象者が指定する場所(大学の研究室、教室、会議室、および学外の会議室)でインタビューした。その際、倫理的配慮として、研究目的以外に用いないこと、匿名性を保持することなどを説明した。なお、本調査では、科目名にクリティカルシンキング(批判的思考、論理的思考)と明示されているもののみ

ならず、科目名には明示されていなくても教員がクリティカルシンキングを積極的に取り入れていると自覚している授業も対象とした。

### 3.2 分析方法

インタビュー調査の発言内容をコード化し、それらのコードを共通点・相違点について比較分析することによりカテゴリー化(抽象化)する質的分析方法を用いた。なお、分析については研究メンバーで同意できるまで検討した。さらに、クリティカルシンキング授業の実践について、授業方針・目標、授業内容、授業教材、授業の教科書、授業方法及び授業における評価という項目に分類した。

## 4. 結果

### 4.1 クリティカルシンキング授業の実践に関するカテゴリー化

インタビューを質的に分析したところ、10名のインタビューから得られた664個のコードから96個のコードが抽出された。これらのうち授業実践に関するものをさらに分析した結果、(1)教員のクリティカルシンキングを教育しようとする意識は高くないという状況が浮かび上がった。加えて(2)これを教育する能力が必ずしも十分ではなく、(3)クリティカルシンキング教育は大事であると認識することがあげられた。また(4)クリティカルシンキング研修が教員に必要であるという対応策が抽出された。一方(5)多くの大学は組織的にクリティカルシンキングを授業に取り入れているのではない状況であり、(6)大学はこれを積極的に授業に取り入れる必要があることが抽出された。さらに(7)社会的にクリティカルシンキングの能力の重要性は認められてきており、(8)制度的な試験による外部からの力が働けばこの教育は広まるという対応策が指摘された。これらのカテゴリーから、〈Ⅰ〉教員、〈Ⅱ〉大学自体、〈Ⅲ〉大学の外部という3つの視点が抽出され、さらにクリティカルシンキング授業の実践に関する状況・問題及び教員から見たその対応策が浮かび上がってきた(表1)。

表1 クリティカルシンキング授業の実践に関するカテゴリー

	状況・問題	対応
I 教員	(1) クリティカルシンキングを教育しようとする意識が高くない ① クリティカルシンキングの重要性・必要性が教員間で理解されていない ② 教員がクリティカルシンキングを授業に取り入れようとしない ③ 伝統的な授業方法でよいと考えている	(3) クリティカルシンキング教育が大事であると認識する ① クリティカルシンキング育成に自覚的になるとことが大事である ② クリティカルシンキングを促す授業を行うという意識改革が必要である
	(2) クリティカルシンキングを教育する能力が必ずしも十分ではない ① 採用時にクリティカルシンキング教育の能力は問われていない ② 授業で積極的にクリティカルシンキングを教育することができない	(4) クリティカルシンキング研修が教員に必要である ① クリティカルシンキングの概念・位置づけを理解する研修が必要である ② クリティカルシンキングの教育能力の向上のための研修が必要である
II 大学 自体	(5) 多くの大学が組織的にクリティカルシンキングを授業に取り入れているのではない ① 大学のカリキュラムに不可欠だと認識でクリティカルシンキングに注力している大学は少ない ② クリティカルシンキングに関連した科目を必修にしているのは例が少ない ③ 英語教育でクリティカルシンキングを組織的に取り入れている私大が存在する ④ クリティカルシンキングを積極的に行っている授業は、多くの場合教員の個別の努力や授業への強い思いによっている	(6) 大学がクリティカルシンキングを積極的に授業に取り入れる必要がある ① クリティカルシンキングを大学をあげて行うには、トップダウンの意思決定が必要である ② 単位化など、クリティカルシンキング教育の達成を明示する ③ 大学自体がクリティカルシンキング育成の重要性に気づき始めており、自ら変化する可能性がある
III 大学 の 外部	(7) 社会的にクリティカルシンキングの能力の重要性が認められてきている ① 外資系をはじめ入社試験でクリティカルシンキングが出題されてきている ② 医師・看護師、弁護士など専門家の領域でもクリティカルシンキングが必要になってきている ③ 学士力、社会人基礎力として、クリティカルシンキングの必要性が認められてきている	(8) 制度的な試験による外部からの力が働けば、クリティカルシンキング教育が広がる ① 入試科目に導入されれば、クリティカルシンキング教育は広がる ② 大学版PISAが始まれば、クリティカルシンキング教育は広がる ③ 就職試験の科目として必要になれば、クリティカルシンキング教育は広まる

凡例 (1): カテゴリー  
①: サブカテゴリー

## 4.2 特徴のある授業の実践例

### ① 授業方針・目標の例

\* クリティカルシンキングを身に付けること。つまり記憶に残る、とり出せるだけでなく、別の例で説明できることを目標にした。

\* クリティカルシンキングのスキルは後でも習得するのは可能であるが、クリティカルシンキングの態度を作ることは時間がかかった。教育においてクリティカルに考える態度を養うことは、重要なことだ。

\* 学んだ知識がうまく使えていなかった。そこで授業では知識と知識を有機的に繋げることを目指して、知識のやりくりを上手に行えるようにした。

\* 授業以外でも、学生が進んでクリティカルシンキングを行えるようになることを目指した。

### ② 授業内容の例

\* 学生がクリティカルシンキングに自覚的にならうべく、学生自身がPBL (Problem Based Learning, 問題に基づく学習) のテーマを選択して、その問題解決

を図った。

\* 教職課程の授業では教員になる学生が生徒を主観で判断しないように、認知バイアスの話をした。

\* インターカルチュラルコミュニケーションの理論を多文化社会の問題を理解するために適応した。

\* 人間はだまされるのが自然だ。これを基本として、人間の間違え、バイアスのパターン及び癖を理解し、落とし穴に陥らない方法を考えた。

\* 授業で人類に宛てた遺書を書き、その人の世界観や人生観を考えさせ、概念化し一言で表現した。

### ③ 授業教材の例

\* 教員が独自でクリティカルシンキング向上のためのカード・ゲームを開発し、実践した。

\* PBL が中心の授業では、その演習やケースを教員が全て手作りをした。

\* クリティカルシンキングのエクササイズやゲームのマニュアルを考え、実施して、相互評価し、議論した。

\* 実際の英語の論文を、毎週1本ずつクリティーク(文

献検討), 査読を練習するような授業を行った。

\*クリティカルシンキングの授業では、いわゆる市販の教科書を使わないで、直接英語の論文を読んだ。

#### ④ 授業の教科書の例

教員の専門分野も授業方針・目標もさまざまであり、教科書は多岐にわたっていた。今回の調査を参考に、科研と授業の両方を行う教員が利用している教科書の例を表2に示す。

#### ⑤ 授業方法の例

\*PBLの授業では学生達が選定したテーマを調査分析し、その過程でクリティカルシンキングを育成した。

\*学生の提出物をお互いにMoodleにアップして相互に参照できるようにした。多くの学生の目に触れるので、学生がコピーをしないようになり、コピー問題は減少した。

\*学生の提出物を無記名にしてMoodleで共有した。さらに、そこでできるだけ英語でディスカッションを行った。

\*問いを問うこと(相互問答法)で、問いをどんどん広げたり深めたりした。

\*学生がマインドマップを描き、相互に意見を言った。英語で行うと言葉に意識的になった。

#### ⑥ 授業における評価の例

授業での評価方法を調査した。その結果、従来型の試験やレポートなど、紙媒体による評価の他、プレゼンテーション、ディベートやディスカッション、グループ内での行動観察などがあげられた(表3)。受講者全員に一人1分の面接試験を実施している例や、グループ学習におけるフリーライダーが出ないように、学生間のディベートを学生同士で相互評価している例もあった。また、学生の解答が教員の想定していた解答例より優れている場合は、高く評価するという方法もとられていた。さらに、クリティカルシンキングの授業による効果がその特質上、知識量の増加では計れないこともあり、その伸びを客観的な評定値で把握することは容易ではないことが指摘された。

表2 我が国の大学の授業で利用されているクリティカルシンキングの教科書の例

著者	書名	発行所
Dorothy E. Zemach, Lisa A. Rumisek	Success with College Writing	Macmillan Education
E.B.ゼックミスタ他	クリティカルシンキング・入門篇	北大路書房
E.B.ゼックミスタ他	クリティカルシンキング・実践篇	北大路書房
グロービス・マネジメント・インスティテュート	MBAクリティカル・シンキング	ダイヤモンド社
市川伸一	考えることの科学	中央公論社
苅谷剛彦	知的複眼思考法	講談社
菊池聡, 宮元博章, 谷口高士	不思議現象 なぜ信じるのか	北大路書房
教養の心理学を考える会(編)	素朴な心のサイエンス	北大路書房
Linda Elder, Richard Paul	How to Study & Learn a discipline	Foundation for Critical Thinking
道田泰司	クリティカル進化(シンカー)論	北大路書房
道田泰司他, 楠見孝他(監)	クリティカルシンキング	ベネッセ
野矢茂樹	論理トレーニング101題	産業図書
T・シック・ジュニア, 菊池 聡他	クリティカルシンキング 不思議現象篇	北大路書房
谷岡一郎	「社会調査」のウソ	文藝春秋
利島保, 生和秀敏	心理学のための実験マニュアル	北大路書房
若山昇	誰でもわかるクリティカルシンキング	北樹出版
渡辺健介	世界一やさしい問題解決の授業	ダイヤモンド社

表3 クリティカルシンキングの授業で行われている評価の分類

客体		学生	教員
主体	学生	自己評価	授業のフィードバック
		ピア・レビュー(相互評価)	授業評価
教員	紙媒体による	従来型のペーパー試験 レポート試験	N.A.
	紙媒体以外	プレゼンテーション ディベート ディスカッション グループ内の行動観察 口頭試問	相互の授業見学 授業研究会等

## 5. 考察

### 5.1 クリティカルシンキング授業の実践

#### ① これまでのクリティカルシンキング授業

なぜクリティカルシンキングを授業に取り入れる必要があるのだろうか。現状通りで十分であり、あえてその必要性はないという議論もある。なぜなら、そもそも学校制度が存在しなかった時代においても、例えば歴史的な偉業を成し遂げた人は、クリティカルシンキングができたと考えられるからである。さらに、大学の設置以降も、これまでクリティカルシンキングの授業科目がほとんどなかったことで、クリティカルシンキングを駆使できたと考えられる近代の多くの偉人たちも、大学の授業としては学んでないことになる。当然、本調査対象者を含めたクリティカルシンキングの先駆者たちは必ずしも学部時代にいわゆるクリティカルシンキングの授業を受けていたわけではないだろう。さらに、現在の大学教育においても学生は単に知識を習得するだけでなく実際にクリティカルに考え、卒業後の人生においても自分でクリティカルに考えることができる力を、さまざまな講義や演習を通して養うことができる。一般に授業において積極的にクリティカルシンキングを養うか否かは、教員の自由裁量に委ねられており、現在でもかなりの教員は学生がこの力を身に着けるべく努力している。

そもそもクリティカルシンキングは特に学習しなくても、人はある程度は論理的に考えることができる。例えば、クリティカルシンキングを学び論理的に思考する方法を体系的に習得することは、

語学を学ぶ際に「文法」を体系的に習得することに似ている。つまり、「文法」を知っている方が語学を習得する際に効率的に深く理解しやすくなるが、「文法」なしに語学を学ぶことは不可能ではないし、またそれが自然であるとも言えるだろう。したがって、クリティカルシンキングを習得して問題に対処することは、「文法」を知って新たな外国語に対処する効果が生じると考えられる。調査結果に示されたように、(5)多くの大学が組織的にクリティカルシンキングを授業に取り入れているのではなく、多くの場合教員の個別の努力や授業への強い思いによっているという現状は、このような背景によるものと推察される。

本調査でインタビュー対象とした10名はクリティカルシンキング教育で先駆的な教育者・研究者であり、調査結果は教員の全体を反映していない。しかし、その先駆者の現状認識として、教員については(1)クリティカルシンキングを教育する意識が高くなく、(2)クリティカルシンキングを教育する能力が必ずしも十分でないことが指摘された。その理由として採用時にクリティカルシンキング教育の能力は問われていないことがあげられている。教員採用試験に合格さえすれば、教員は採用後も制度的にはクリティカルシンキング教育の能力を問われることはない。確かに(4)教員のクリティカルシンキング研修など現行の制度の変更をすることが解決策となりうるが、対応策として(3)クリティカルシンキング教育が大事であると認識することが示されている。しかし、まずは順序からして教員の意識の改革が先となるだろう。さらに、大学自体については、(6)大学がクリティカルシンキングを積極的に授業に取り入れる必要があり、トップダウンの意思決定などの必要性が示唆されたことは、調査対象者の期待の高さを反映していると考えられる。

一方、先行研究をみると、大学における学生の変化には、クリティカルシンキングを行おうと思うクリティカルシンキング志向性[9]は大学4年間で有意に向上するという報告があるが[10]、大学2年間(1~2年次)では有意な差は見られないという

結果もあり[11]単純に一般化することは難しい。

## ② 今後のクリティカルシンキング授業

調査結果にあるように(7)社会的にクリティカルシンキングの能力の重要性が認められてきているが、そもそもクリティカルシンキングは「文法」と同様にそれ自体が付加的な位置づけであるので、(6)授業に積極的に取り入れることを、実施するか否かは議論の余地がある。まず、クリティカルシンキング教育について現状のままで新たに何も実施しないという選択肢については、現状に変化がなく検討を急ぐ必要がないので、ここでの考察対象からは外すことにする。そこで本論では積極的に授業に取り入れる場合の考察を進める。クリティカルシンキングを積極的に授業に取り入れるということは、具体的には(a)既存の授業を活用する、(b)クリティカルシンキングという科目を設定する、(c)さらに、必修化するという3通りの方法が考えられる。

(a)既存の各教科においてクリティカルシンキングを積極的に取り入れる場合は、授業科目名にはクリティカルシンキングとは明示されない。シラバスにもクリティカルシンキングについて何も記載されてないが積極的に取り入れている授業もあり、全体像を把握するのは難しい。クリティカルシンキングはあらゆる分野で教えることができ、さまざまな学問分野でこれを養うことができるとされている[12][13]。実際にクリティカルシンキング教育は心理学、看護学、経営学、法学、英語教育などの分野で盛んであり[14]、さまざまな分野のいろいろな授業に取り込まれている。

大学は初等中等教育とは異なりカリキュラムを主体的に編成できるので、大学がその重要性・必要性が大きいと判断すれば、クリティカルシンキングを積極的に授業に取り入れることが可能となる。例えば、ある大学のように教育方針(アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーなど)に明記し、大学の学部・学科において組織的にこれを促す方法がある。さらに、大学にはいわゆる学習指導要領がなく授業

の詳細は教員に委ねられているので、教員が自らの判断で授業にクリティカルシンキングを積極的に取り入れることは不可能ではない。例えば、あえて学生に答えを伝えず考えてもらう問題や答えのない問題を積極的に提示して、学生にクリティカルシンキングを促す方法がある。また、認知主義的な単なる知識の伝授型の授業に留まらずに、学生主体の構成主義的な授業に変革していく方法もある。

なお、先行研究においては、科目名にはクリティカルシンキングと明示されていないが積極的に取り入れている授業において、学生のクリティカルシンキング志向性が有意に伸び[15]、またクリティカルシンキング能力の自己評価得点[16]が有意に向上した報告がある。

(b)さらに、クリティカルシンキングという授業科目を設定する方法がある。情報リテラシー、文章表現などのアカデミック・スキルが大学の正規の授業科目になることを鑑みれば、クリティカルシンキングを授業科目とすることも一案であり、実際にいくつかの大学ではこの授業科目が設けられている。このような授業科目は、いわゆる伝統的な専門分野ではないので、教材の選択範囲に何ら縛りはなく、教員の裁量の余地がさらに大きくなる。つまり、教員が授業題材を全く自由に選べるので、例えば卒業・就職、社会問題、家族・異性など学生の身近なテーマを題材にすることができ、学生の関心を高めることも可能となろう。科目名にクリティカルシンキングと明示されることにより、教員・学生共にクリティカルシンキングに対する意識や関心が高まり、クリティカルシンキングに敏感になるという付随的な効果も期待できる。このような授業科目を設定するか否かは、組織的な判断を伴う課題である。たとえクリティカルシンキングが重要であると認識され、クリティカルシンキングの授業科目を設定しようとしても、その実施には人材・時間などのコストの問題を伴うので、(a)よりも実現に向けて克服すべき課題は多くなる。

なお、先行研究においては、クリティカルシンキングと明示した授業科目において半期という短期

間の授業でも学生のクリティカルシンキング志向性が有意に向上し、さらに受講の有無による交互作用も報告されている[17].

(c)最後に、クリティカルシンキングの授業科目の必修化について考察する。必修化は〈Ⅱ〉大学自体によるのか、あるいは〈Ⅲ〉大学の外部からの力によるのであろうか。例えば、国内においても、わずかではあるがクリティカルシンキングの授業科目を必修としている大学がある。この場合、クリティカルシンキングの重要性・必要性が理解されていると言えるかもしれない。しかし、必修化へのプロセスを鑑みるにその重要性・必要性を学内で認識することが初めにありきで、その後に教員・大学自身が必修化を判断したことになる。したがって、必修化は有効な手段だと仮定しても、やはりこれも教員・大学自身がその重要性・必要性を理解することが基本となる。言うまでもなく必修化は選択肢の一つではあるが、実現には(b)よりもさらに克服すべき課題は多くなる。

なお、先行研究においては、クリティカルシンキングが必修化された半期の授業においても、必修化の有無による交互作用は検討されていないが授業の前後において学生のクリティカルシンキング志向性に有意な向上がみられている[1].

## 5.2 クリティカルシンキング教育における能力評価

クリティカルシンキング授業を考える際に、(8)大学の外部からの力により入試などの制度的な試験で広まるだろうとインタビュー調査で指摘された。奇しくも本調査終了後の2012年6月に文部科学省(2012)は大学改革実行プランを発表した[18]。そこで、現行の教科の知識を中心としたペーパーテスト偏重による一発試験的な入試ではなく、意欲・能力・適性などの多面的・総合的な評価に基づく入試への転換が必要であるとされ、思考力・判断力・知識の活用力など(クリティカルシンキングなど)を問う新たな共通テストの開発が検討されることになった。クリティカルシン

キングが大学入試に取り入れられるとすれば、中等教育で教えられることになる。学習指導要領では教科ごとに指導や履修すべき事項は定められているが、教科を越えた考える力などの修得については、修得内容、教育方法、評価法、単位認定についての課題が未解決であると指摘されている[19]。これらをいかに定め、着実に教育現場で実践していくかは、文部科学省の政策力と実行力が問われる課題となる。さらに、大学まで及び大学教育において、どのように影響し、いかなる展開がなされるのか、今後注視される。

一方、大学入学後は学生のクリティカルシンキングはどれだけ伸びるのだろうか。確かに授業の効果を的確に測定するテスト開発が望まれている[20]。さらに、その学生のクリティカルシンキング自体の測定も必要になる。現在、学生時代にクリティカルシンキングのみを直接問われることはほとんどなく、これを実施することについては議論があろう。しかし、専門課程の各科目では学内試験として専門分野に特化した能力が問われている。さらに、英語や情報リテラシーなど、大学教育に横断的に必要な能力、アカデミック・スキルについても、学内試験としてその能力が問われている。クリティカルシンキング自体もアカデミック・スキルとしてその能力が問われるようになれば、クリティカルシンキングという授業の有無に関わらず学習の目標の一つとなる効果があろう。さらに、学外に目を向けると社会のニーズに応えるべく、英語検定、ビジネス検定、秘書検定など、さまざまなスキルを問う試験が存在する。最近では学生が身につける能力として学士力の試験が検討され、社会人基礎力を診断する試験がある。学士力と社会人基礎力の基盤形成として、クリティカルシンキングが位置づけられている[21]ことを鑑みれば、クリティカルシンキングを診断する試験も、社会のニーズに応える選択肢になるであろう。

## 5.3 クリティカルシンキング授業における教員の役割

クリティカルシンキングの授業で使用される教

科書については、郵送による調査によると学生用の汎用的で使いやすい教科書が存在しないこともあり、5割以上の教員が教科書を使ってないと報告されている[22]。本調査においても、学生の汎用的で使いやすい教科書は存在せず、多種多様の文献が教科書として利用されていた。これは、昨今クリティカルシンキングの書籍が増えていること、さらに調査対象の教員の専門分野がさまざまであり、授業方針・目標は多岐にわたることによるものである。クリティカルシンキング授業においては教科書に限られたことではないが、授業設計においても定型的・典型的なものはなく、教員の裁量の余地がきわめて大きいのが現状である。このため教員の役割がさらに重要となり、教授能力が大切となる。

教員は自らの授業方針・目標に沿って学生のクリティカルシンキングを高めるべくさまざまな工夫をしていた。例えば、CLIL型学習(内容言語統合型学習)の日本への導入が示唆されており[23]、書き言葉ではあるが英語でディスカッションを行うことで、よりクリティカルに考えるというCLIL型学習がすでに取り入れられていた。外国語で考えることで言葉に意識的になることは本調査でも指摘されており、自らの思考の曖昧さが浮き彫りになりやすい。したがって、さまざまな教科においてこのCLIL型学習の要素を取り入れて学生にクリティカルシンキングを促すことが可能となる。さらに、教員はPBLやゲームを活用し、できるだけ具体的かつ身近なものを教材に取り入れていた。加えて学生がデジタルネイティブであることを活用して、Moodleで議論を促す工夫をしていた。これらのさまざまな授業設計における工夫によって、クリティカルシンキングを行う際の認知的負荷を低減することができるだろう。認知的負荷が低減されれば、難しく感じるクリティカルシンキングがいつでも、より楽しく行いやすくなるであろう。

今回の調査で、授業について強く印象づけられたことは、個別の教員の努力だけに留まらず、調査対象者全員がクリティカルシンキング教育

の重要性・必要性に強い信念を持っていたということである。さらに自分の信念に基づき、授業にさまざまな工夫を凝らしていた。これらの理由として調査対象者がクリティカルシンキング教育の先駆者であることがあげられる。確かに教員が自分の授業科目で新たにクリティカルシンキングを取り入れようとするならば、文献・資料が整うことや先行する授業例の成果など具体的なものが必要条件になるだろう。しかし、それ以上に私はぜひこれを教えたいという強い思いが、そもそもの必要条件となる可能性がある。なぜなら、クリティカルシンキングは覚えるべき知識は少ないが、学生が使えるようになるまで深く理解することが必要だからである。もし、教えたいという強い思いがなければ、学生が認知的負荷のかかるクリティカルシンキングをあえて行おうとはしないと推察されるからである。つまり、私はぜひこれを教えたいと思うことは、クリティカルシンキングを教育する際に重要なことであり、授業で新たにクリティカルシンキングを取り入れる際には必要な要素となるであろう。

ところで、クリティカルシンキングを積極的に授業に取り入れる場合には、教員や学生にとって(a)既存の授業を活用する、(b)クリティカルシンキングという科目を設定する、(c)必修化するという3通りの中でいずれの方法がよいのだろうか。事例数に限りがあるものの、(a)~(c)のいずれの形式であってもクリティカルシンキング志向性が有意に向上し、かつ各々の形式による較差が不明であるので、形式的な要件の差異が重要であるとは言い難い。一方、授業の目標が学生のクリティカルシンキングの向上であるならば、(a)~(c)の差異より重要なことは学生がどれだけ授業を理解し、到達目標に近づけるかということである。したがって逆説的ではあるが現状では(a)~(c)の授業タイトルや選択・必修の別などの形式的な要件も必要だが、むしろ授業内容や教授方法、教授能力や意識・行動など、教育や教員の質的な要件が重要となるであろう。

## 6. おわりに

社会人基礎力・学士力や 21 世紀型スキルにも見られるように、社会人のみならず学生にも論理的な思考力が求められるようになってきている。クリティカルシンキングを積極的に授業に取り入れることは選択肢の一つであるが、制度的な外部からの力や授業科目必修化などの形式的な方法論よりも、むしろ教育や教員の質的な要件が基本であり重要であることが示唆される。今後は、その要件についての研究を深めていきたい。本稿が授業関係者による検討の一助になれば幸いである。なお、本研究の一部は、科学研究費助成事業 基盤研究(C)課題番号 23501173 の助成を受けている。

### 謝 辞

ご多忙のところインタビューにご協力を賜った研究者の方々に心から感謝の意を表します。

### 参考文献

- [1] 若山昇, “大学におけるクリティカルシンキング演習授業の効果—クリティカルシンキングに対する志向性と認知欲求の変化から—”, 大学教育学会誌, 31(1):145-153, 2009
- [2] Tamblin. L & Ward. P, “The smart study guide : psychological techniques for student success”, Blackwell, Malden MA, 2006 (植野真臣翻訳, “大学生のための学習マニュアル”, 培風館, 2009)
- [3] 楠見孝, 子安増生, 道田泰司(編), “批判的思考力を育む--学士力と社会人基礎力の基盤形成”, 有斐閣, 2011
- [4] 経済産業省社会人基礎力に関する研究会 中間取りまとめ, <http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/torimatome.htm> (参照日 2012.06.08), 2006
- [5] 文部科学省学士課程教育の構築に向けて (中央教育審議会答申), [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm) (参照日 2013.11.05), 2008
- [6] Griffin. P, McGaw. B, Care. E (Eds.), “Assessment and Teaching of 21st Century Skills”, Springer, New York, 2011
- [7] 若山昇, 梶谷真司, 渡辺博芳, 上名主巖, 赤堀侃司, “クリティカルシンキング教育の展開”, 日本教育工学会第 29 回全国大会講演論文集, 795-796, 2013
- [8] 若山昇, 梶谷真司, 渡辺博芳, 上名主巖, 赤堀侃司, “クリティカルシンキング教育の実践例と課題”, 日本教育工学会第 28 回全国大会講演論文集, 693-694, 2012
- [9] 廣岡秀一, 小川一美, 元吉忠寛, “クリティカルシンキングに対する志向性の測定に関する探索的研究”, 三重大学教育学部研究紀要, 51: 161-17, 2000
- [10] 元吉忠寛, 小川一美, 廣岡秀一, 吉田俊和, “大学生の適応過程に関する研究 (10) クリティカルシンキング志向性と認知欲求の変化”, 日本教育心理学会総会発表論文集, 43:660, 2001
- [11] 小川一美, 元吉忠寛, 廣岡秀一, 山中一英, 吉田俊和, “大学生の適応過程に関する研究 (3) クリティカルシンキングと認知欲求の変化”, 日本教育心理学会総会発表論文集, 41:254, 1999
- [12] Chaffe. J, “Teaching Critical Thinking across the Curriculum”, In Barnes. Cynthia A. (Ed), “Critical thinking educational imperative”, Jossey-Bass, San Francisco:25-36, 1992
- [13] Nosich. Gerald M, “Learning to think things through: A guide to critical thinking across the curriculum”, Pearson, Boston, 2012
- [14] 久保田祐歌, “どのような授業でクリティカルシンキングを教えられるか”, 名古屋高等教育研究, 10:253-268, 2010
- [15] 長田真美, 五十嵐清治, 沢辺千恵子, 大山静江, 岡橋智恵, 植木沢美, “臨床実習の学習過程におけるグループリフレクションの教育的効果—クリティカルシンキング志向性の促進—”, 北海道医療大学歯学会雑誌, 27(1):62, 2008
- [16] 常盤文枝, 高橋博美, 大場良子, 市村彰英,

鈴木玲子, 山口乃生子, 山下美根子, 伊元勝美, 久保田章仁, “PBL テュートリアル教育における学習効果測定を試みークリティカルシンキングと学習スタイルの変化ー”, 埼玉県立大学紀要, 8:69-74, 2006

[17] 若山昇 “大学におけるクリティカルシンキング演習授業の効果(2)ー受講の有無, 卒業後の目標の有無からの分析ー”, 帝京法学, 27(1):35-50, 2011

[18] 文部科学省 大学改革実行プラン, [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/24/06/1321798.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/24/06/1321798.htm) (参照日 2013.11.05), 2012

[19] 楠見孝, 批判的思考についてーこれからの教育の方向性の提言ー, [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/047/siryo/\\_icsFiles/afieldfile/2012/09/20/1325670\\_03.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/047/siryo/_icsFiles/afieldfile/2012/09/20/1325670_03.pdf) (参照日 2013.11.07), 2012

[20] 平山るみ, “批判的思考の測定”, 楠見孝他(編), “批判的思考力を育む-学士力と社会人基礎力の基盤形成”, 有斐閣, 2011

[21] 楠見孝, “批判的思考とは”, 楠見孝他(編), “批判的思考力を育む-学士力と社会人基礎力の基盤形成”, 有斐閣, 2011

[22] 東京女子大学学生研究 CRT チーム, “日本の大学における Critical Thinking 調査・研究”, <http://www.cis.twcu.ac.jp/circles/crt/report.html> (参照日 2013.10.28), 2008

[23] 中西千春, 若山昇, 中西穂高, “欧州連合における内容言語統合型学習 (CLIL 型学習) の現状と日本への示唆”, 日本総合文化研究会紀要, 13:1-20, 2012

(2014年2月28日受理)